

愛大病院による最適な医療で心疾患に向き合う

- DOCTOR'S VOICE 01 新しい治療薬の登場で、治療法が進化・多様化
四国で唯一の植込型補助人工心臓治療をチームで届ける
長い療養生活に寄り添って、一緒に考えていく看護
- DOCTOR'S VOICE 02 成人後も続く、先天性心疾患の患者さんへの生涯医療
- DOCTOR'S VOICE 03 高度な医療技術と医療体制で、包括的ケアへ



循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 教授 山口 修
 心臓血管・呼吸器外科学講座 教授 泉谷裕則
 慢性心不全看護認定看護師 得松美月

心不全特集

ここでしかできない最適な治療を提供

新しい治療薬の登場で、治療法が進化・多様化

慢性心不全は心臓の状態悪化に伴い様々な症状が出て生命に影響を及ぼします。ただ近年、新薬が続々と登場し、治療選択肢が大幅に増えています。その結果、心不全による入院を繰り返す頻度や生存率も改善されつつあります。既存の治療薬についても、作用を十分に発揮できるよう処方を見直す流れが世界レベルで起こっています。多様な治療方法が選択できる状態に変わり、私たち医師にも既存薬・新薬を併せての組み合わせと使う順番のコントロールが求められています。また昨年産官学の連携による、健康診断や危険因子に対する早めの診療の大切さも伝えています。

PROFILE

やまぐちおさむ◎1995年大阪大学医学部卒業、医学博士取得。大阪大学医学部附属病院、国立大阪病院、大阪警察病院での臨床研修などを経て、2018年4月から現職。趣味は読書、サイクリング。



四国で唯一の植込型補助人工心臓治療をチームで届ける

重症心不全治療の最終段階は心臓移植です。日本での移植の待機時間は長く5年で、今後さらに長くなる見通し。その期間を支えるのが、植込型補助人工心臓です。この治療ができるのは、四国でも唯一、附属病院だけです。手術は国内で2011年に始まり、当院は2014年に実施施設に認定されました。手術自体は難しいものではありませんが、手術前の病状の安定や、手術後の外来診療と、内科と外科の連携が不可欠で実施施設としての認定には高いハードルがありました。現在移植は大阪大学で行っています。来年秋に心臓移植の実施施設として申請できるようワーキンググループを立ち上げ準備しています。

PROFILE

いずたにひろのり◎1996年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。りんくう総合医療センター市立泉佐野病院などを経て2011年4月から現職。趣味はモータースポーツ、海水魚飼育。



長い療養生活に寄り添って、一緒に考えていく看護

2013年に愛媛県第1号として慢性心不全看護認定看護師の資格を取得しました。認定看護師には実践・指導・相談の役割があります。実践は患者さんに心不全増悪予防のための生活指導や精神面のサポートをします。指導・相談では多職種カンファレンスで他の看護師さんたちにアドバイスをしたり、患者さんの困っていることや分からないことの相談を受けたりしています。日々の業務を続けながらも、私に続く後継者育成（県内は4名）も急務だと考えています。

PROFILE

とくまつみつき◎2005年愛媛大学医学部看護学科卒業。2013年慢性心不全看護認定看護師、2016年人工心臓管理技術認定士の資格を取得。現在、総合診療サポートセンターにて勤務。



移行期・成人先天性心疾患センター紹介

成人後も続く、先天性心疾患の患者さんへの生涯医療

移行期・成人先天性心疾患センター長 檜垣高史

医療の進歩で先天性心疾患の患者さんの多くが成人し（約95%）、社会生活を送ることができるようになってきました。しかし、小児期とは異なるいろいろな課題があり、成人への移行期を含めて診療や定期検診ができる医療環境と体制が必要になってきました。当院では、成人した先天性心疾患患者さんを専門的に診療するチームを中心として、2021年1月にセンターを立ち上げました。センターでは先天性心疾患など子どもの心臓病の専門知識をもつ小児循環器科と、心筋梗塞や心不全など成人期の心臓病の専門知識をもつ循環器内科の医師が連携して診察。両者の専門知識を掛け合わせることで各患者さんに最適な診療を提供できます。生涯にわたり、適切な医療を受けられる環境となり、医師以外のコメディカルや支援員との連携もできることから、進学・就職・結婚など様々なライフイベントへの相談や支援も受けやすくなりました。認定NPO法人ラ・ファミリエと連携して、自立支援や就労支援にも取り組んでいます。今は先天性心疾患のみですが、医療のあるべき姿としては、全ての先天性疾患についての生涯医療の構築が必要だと考えています。



PROFILE

ひがきたかし◎1988年愛媛大学医学部卒業。2015年4月に地域小児・周産期学講座教授に着任。2021年1月より現職（併任）。専門は小児循環器。ラ・ファミリエの理事長として慢性疾患児の自立を支援している。趣味は中学生から続けている卓球。

小児用補助人工心臓EXCORの紹介

高度な医療技術と医療体制で、包括的ケアへ

心臓血管・呼吸器外科学講座 准教授 打田俊司

人工心臓には埋め込み型と体外式の2種類があります。小児用として世界で認可されているのはBerlin Heart社の体外式補助人工心臓EXCOR（エクスコア）ただ一つです。これは、拍動流型で空気圧駆動を行うポンプがついており、成長による体格の増大に伴い2.5kgから80kgまでポンプシステムを選択できます。長期的に安定して心臓補助を行えるシステムであり、キャスター付き駆動装置により院内での移動も可能。実際に装着している患者さんは院内売店で買い物をするもできています。

当院は2016年に1回目の認可を受けました。現在EXCORを複数台所持し、常に1～2名の患者さんを治療できる体制を作っています。中四国エリアで唯一EXCORを導入して補助人工心臓治療を行っている施設でもあります。小児循環器専門医、人工心臓管理技術認定士、専門研修を受けた看護師、臨床工学技士、薬剤師、臨床心理士、栄養士といった多職種でチーム構成をし、治療・看護にあっています。こうした高度かつ総合的な体制で、患者さんへの医療だけでなく本人やご家族への精神的なケアまで包括的に取り組んでいます。



PROFILE

うちたしゅんじ◎1990年愛媛大学医学部卒業後、医学博士取得。東京女子医科大学日本心臓血管研究所、ルートヴィヒ・マクスミリアン大学、長野県立こども病院を経て、2015年4月から現職。附属病院小児総合医療センター長兼任。趣味はサッカー、読書。

TOPICS



緩和ケア研修会を実施

令和3年7月3日(土)、医師や看護師のスタッフ総勢32人が参加し、感染症対策に配慮しながら、緩和ケアに関する基本的な知識や技術を学びました。研修会は、がん診療連携拠点病院の指定要件として、平成21年度から開催し、今回が12回目です。がん告知を受ける患者と告知をする医師のロールプレイ、地域で連携した緩和ケアの実施について考えるグループワークなど様々なプログラムを実施しました。今後も愛媛県におけるがん診療体制の向上に努めます。



砥部焼作家の山田氏へ 感謝状を贈呈

砥部焼作家の山田ひろみ氏から、山田氏が作成した陶板の寄贈を受け、令和3年8月16日、杉山隆附属病院院長より山田氏に感謝状を贈呈しました。四季の花々を描いた約6.3㎡の陶板は、山田氏の「コロナ禍の厳しい状況の中、患者さんやご家族、医療従事者に絵を通して、癒やしや温かい気持ちになってもらえたら嬉しい」という思いのもと、外来、入院問わず様々な人が陶板を見て一息つけるよう、附属病院1号館1階患者図書室横に設置されました。



愛媛大学附属高等学校 夏季高大連携プログラムを実施

令和3年8月2日(月)、愛媛大学附属高等学校夏季高大連携プログラム「応用科学探究」をオンラインにて実施し、附属高校2年生15名が参加しました。本プログラムは、大学における専門分野について学ぶもので、医学部では「医療ボランティア」をテーマに、総合診療サポートセンターの小手川雄一助教、ボランティアいきいき会の寺岡陸雄会長と野村和男副会長、看護学科の野本美佳助教、小林直人総合医学教育センター長から、医療現場におけるボランティアの意義と役割などについて学びました。



ボランティアいきいき会 感謝状贈呈式を実施

令和3年6月30日(水)、ボランティアいきいき会の感謝状贈呈式を開催し、ボランティア活動員及び職員約20人が参加しました。いきいき会は、医学部附属病院の医療関係者と協力して、患者さんが少しでも快適な環境で安心して治療が受けることができるように、病院でボランティア活動を行っています。今回、ボランティアとしての活動時間が多めであり、環境美化活動などで当院へご貢献いただいた7人の活動員のみなさんに感謝状を贈呈しました。今後もいきいき会と協力して日々の活動に励んでいきます。



今月の1枚



左からアジサイ、グロリオサ、ダリア、ブラックベリーを描いています。

#砥部焼作家 #陶板

#憩いの場



編集後記

本号では、循環器疾患の診療に従事されている方々に、現在の取り組みや思いについて語っていただきました。愛大病院では、移行期・成人先天性心疾患センターの開設をはじめとして、チーム医療や高度先進医療の提供により、難治性心不全に対応できる診療体制を整えてきました。心疾患で亡くられる方が多いとされている愛媛県の課題解決に向けたさらなる取り組みに期待したいと思います。

広報委員会委員長

熊木天児



今月の表紙

心臓カテーテル検査

移行期・成人先天性心疾患センター長
檜垣高史

小児科学講座 准教授 高田秀実

循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 助教
赤澤祐介

小児総合医療センター 助教 河本 敦

